

# 不動寺だより

瑞宝山 不動寺

平成26年3月  
TEL 75-4862

## 平成25年11月からの不動寺行事

### 平成25年11月23日 高野山で住職講演



医師として大切な心を話してほしいということで講演依頼があり、医師を目指す若い学生たちが全国から120名ほど参加して高野山赤松院で「宿坊合宿」が開催されました。

私たちは相手の立場に立てないのだから、相手に寄り添うことが大事。「医は仁術」の「仁」は寄り添うこと。天皇家のお名前に「仁」がつくのは、「国民に寄り添う」という意味があるのです。つまり医療は「寄り添うすべを磨くこと」なのです。マザーテレサは最期まで弱者に寄り添った方です。というような話をしました。

### 平成25年11月23日 土寺小屋 「無常について」

「諸法空相 不生不滅 不垢不浄 不増不減」の説明。ケーキが出来上がるまでを喩えに「無常」についてお話ししました。

ケーキを作るためには材料として牛乳、砂糖、小麦粉、卵など、道具としてはボール、電気やガスなどが必要です。

材料が出来上がるまでには農家の人、車、燃料がなければなりません。道具なども鋳石などの原材料や原油やそれを採掘する人など、数え切れないほどの「縁」がなければ使うことができません。言い換えればケーキができるまでには一瞬たりとも「常」なるものはなく、ケーキが出来上がってもやがて質が下がり腐敗が始まります。

このようにすべてのものは縁や条件によって変化するもので、一時たらずも「常」なるものはないのです。

人の心も同じく「嫌い」は「好き」に変化するし、「苦」は「楽」にも変化するのです。「悲しい」は「喜び」に変わることがあるのです。



般若心経が教える「無常」は、こだわりや執着をなくせば人の心を「幸せ」に変えることができるんだと説いているのです。

御弥津は柿チーズサンドでした。

### 平成25年11月28日 護摩焚き

### 平成25年12月28日 終い不動と護摩焚き



平成25年の最後の護摩を焚きと、大根炊きのお接待が行われました。

一年の無事や大難が小難に納めていただいたことに感謝し、来る年の家内安全や交通安全を祈願して参拝者一同熱心に般若心経をお唱えしました。

### 平成26年1月25日 住職の母94歳の大往生

十人兄弟の真ん中の母は小学校で字を覚えるまもなく子守として奉公に仕え、遠くは神戸まで行ったと聞きました。



20歳を過ぎたころ風呂敷包み一つで五ワットの豆電球一つしかない不動寺に嫁ぎました。住職の母には両手がありませんでした。しかし両手がなくても何でもできる住職の母親から多くのことを学びながらも赤貧が解消されることはありませんでした。そんななかで男ばかり三人の子を育て上げた母の苦労は並大抵のものではなかったと思います。

そんな母に充分な孝行や恩返しができなかったかという、むしろ申し訳ない気持ちのほうが先にあるのです。でも最期するとき、やつれることもなく、美しくおだやかに逝ってくれたことが何より母から子どもたちへの「ありがとう」のメッセージのように思うのですが、感謝の気持ちはむしろ、母が認知症になるまでに会話ができ理解できるころにもっと伝えておくべきだったと、遺影を見ながら感じています。合掌

### 平成26年3月22日 土寺小屋

彼岸を迎えた3月の土寺小屋は辻和道副住職がおぜんざいを御弥津としてお接待しました。家に帰って美味しかったことを話すと、旦那に「作ってくれ」と言われた人もいた……とか。

